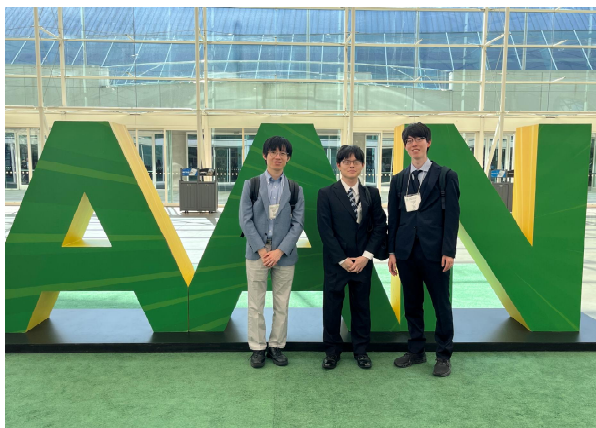


American academy of neurology Annual Meeting 2025 @San Diego 体験記 脳神経内科 安藤知秀

(1) はじめに

今回、岐阜大学医学部附属病院国際医療センターによる国際学会参加支援事業プログラムからご支援いただき、American academy of neurology Annual Meeting 2025 (AAN annual meeting 2025)に参加させていただきました。(図 1)非常に貴重な機会をいただき、感謝致しますとともに、学会で感じたことや岐阜大学若手医師の海外学会進出が増えることを祈念し、学会報告をさせていただきます。



(図 1) AAN の看板の前で 同門の先生方と

(2) AAN annual meeting 2025 について

AAN annual meeting 2025 は 1948 年に設立された AAN が開催する、脳神経内科における世界最大規模の学会になります。今回は San Diego で開催されました。当科では下畑教授の指導のもと、積極的に若手のうちから、海外学会へ挑戦する環境があります。抄録を提出し、選考がなされて、採択発表が行われます。2025 年度は当科から 3 人も参加することができました。英語が苦手な私にとっては非常に心強かったです。

AAN annual meeting の特徴として、教育講演の数が非常に多いこと、お祭りムードが強いこと、リーダーシップの講義があること、ポスター発表が日本とは異なることが挙げられます。

教育に力を入れている AAN は、5 日間で約 200 個の教育講演を開催します。自分の発表がない時は気になる教育講演に参加し、聴講する日々でした。同時翻訳サイトもありましたが、あまり役に立つ翻訳ではありませんでした。教育講演は幅広い年代が聴講しており、どの年代でも勉強熱心であることはアメリカでも日本でも変わらないと感じました。

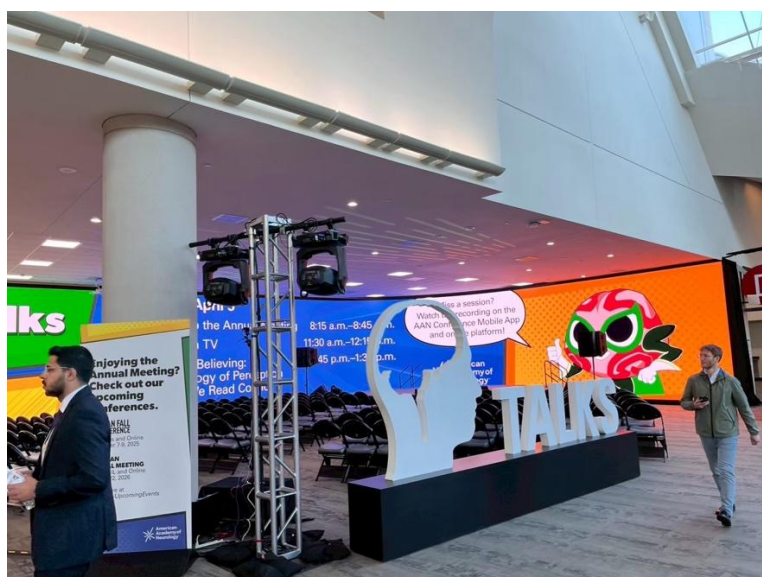
会場内にはハンモックやピククルボール(小さいテニスのようなものでアメリカで流行中)会場、TED のような会場(図 2)、子犬と戯れる場所など楽しめる場所も多くありました。尚筆者はピククルボール大会優勝を目指していましたが、日程的に参加できませんでした。全体のパー

ティーは San Diego の大通りを封鎖し、その通りの店を貸切にするという盛大なお祭り騒ぎであり、有名なバンドも来ていました。日本にはない熱量と盛り上がりを感じました。

AAN はリーダーシップの育成にも力を入れており、Leadership university(図 3)という会場がありました。Leadership university の会場はかなり人気で、良いチームを作るにはどうするかという議論がなされていました。

ポスター発表についてはまた後述いたします。

総じて会場の規模、講演数、盛り上がり(図 4)、など日本とは大きく違うところにとても刺激を受けました。



(図 2)TED talk のような会場。奥にいるのは賛否分かれるマスコットキャラクター”Sarah Bellum” おそらく名前は脳である”cerebellum”から来ている



(図 3)Leadership university

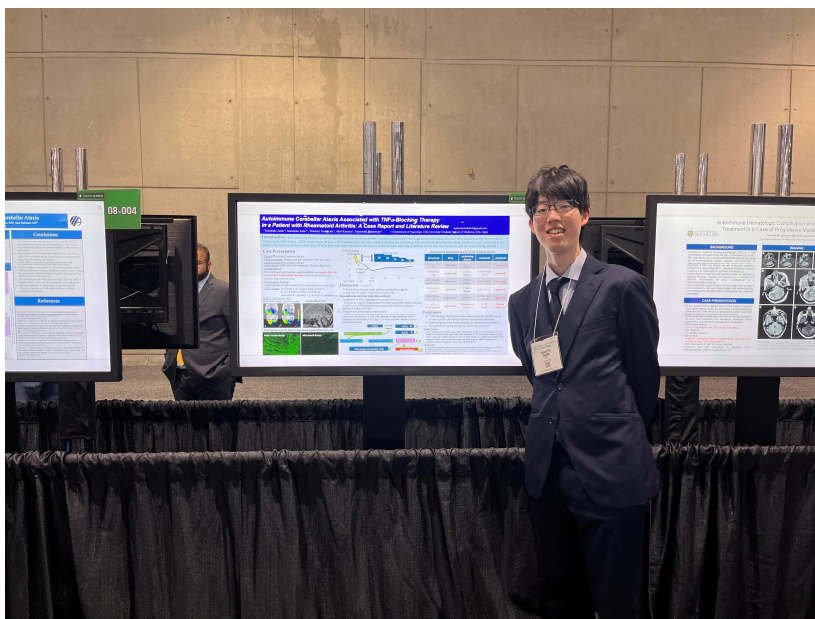


(図 4)メイン会場での講演 いかに盛り上げるかを演者も意識していました

(3) ポスター発表

私は” *Autoimmune Cerebellar Ataxia Associated with $TNF\alpha$ -Blocking Therapy in a Patient with Rheumatoid Arthritis: A Case Report and Literature Review*”というポスター発表をさせていただきました。ポスターは現地にてモニターに映るため、印刷の必要がありませんでした。発表は、ポスターが掲示される 1 時間の間に、前を通り興味を持っていただいた先生方と話すというシステムでした。じっくりポスターを見ることができると、演者とのディスカッションを楽しめるという点において、この仕組みは素晴らしいと感じました。ただ英語力が試される仕組みでもあり、自分にとってはとても長い 1 時間でした。(図 5)

1 時間の中で、興味を持っていただいた 7 人ほどとディスカッションすることができ、様々な示唆をいただきました。多くの先生が私の拙い英語に傾聴してくださり、質問をくださったことに感謝しています。中にはかなり年配の名前を論文で見たことがあるような先生もあり、驚きました。採択から 3 ヶ月間、必死に英語を勉強いたしましたが、全く足りていなかったと痛感する 1 時間でした。



(図 5)ポスター発表にて

(4) 若手が海外学会へ行くこと

特に英語も得意ではなく、脳神経内科の道を歩み始めた私が、1 年目にしてまさか AAN annual meeting にて発表しているとは思っていませんでした。このような機会をいただいたことに深謝いたします。

学会自体はとても刺激的でしたが、私は学会に参加するまでの道のりに意味を感じております。AAN で発表できるレベルに考察を高め、英語を必死に勉強する環境を作り、英語のスライド、原稿を作成する、この一連の過程は AAN に参加したからこそ得られた貴重な経験でした。若手のうちからこの道のりを経験することで、将来さらに高めて挑戦してみたいという志をもつことができました。まだまだ未熟な脳神経内科医ではありますが、今回の道のりと AAN annual meeting で受けた刺激を糧に変え、Global に挑戦できる neuro physician になろうと思いました。

最後になりますが、発表にあたってご指導いただいた下畑教授を始めとする上級医の先生方、学会にともに参加し、刺激を分かち合えた司馬先生に感謝いたします。